



ぶつかり、悩みながらつかみ取ったもの

去る5月16日(土)、初夏の強い日差しが照りつける大変暑い一日となった中、本校の体育会を盛大に開催することができました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、厳しい暑さの中、温かいご声援とこれまでの教育活動へのご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。



今年の体育会で何より職員の内を打ったのは、当日の躍動する姿はもちろん、そこに至るまでの過程にありました。練習期間中、生徒たちは決して順風満帆だったわけではありません。例えば、ブロック演技のタイミングがそろわない、リレーのバトンがうまくいかない、リーダーとしての責任感に押しつぶされそうになる。時には仲間と意見をぶつけ合い、涙を流し、悩み抜いた日々がありました。

しかし、当日の生徒たちの表情はどうだったでしょうか。お互いの違いを認め合い、励まし合い、全力を尽くす姿は、見る者すべてに深い感動を与えてくれました。壁を乗り越えたからこそ得られた、あの弾けるような笑顔と固い絆は、これからの学校生活の大きな財産になると確信しています。

「やさしさ」という名の、しなやかな強さを

体育会で見せてくれた「仲間と本気でぶつかり、高め合う姿」を見て、私はある一冊の本を思い出しました。哲学者・岩村太郎先生の著書『君の「やさしさ」を育てる 36の言葉』です。本書は、古今東西の哲学者の言葉をヒントに、私たちが普段何気なく使っている「やさしさ」という言葉の真意を掘り下げた一冊です。

学校という集団生活の中では、どうしても「周りと合わせること」や「その場の空気を壊さないこと」が優先されがちです。トラブルを起こさないために相手に同調することを、子どもたちは「やさしさ」と勘違いしてしまうことがあります。しかし、それは自分をすり減らし、相手の成長の機会をも奪ってしまう「見せかけのやさしさ」かもしれません。

今回の体育会の練習で、生徒たちはまさにこの「本物のやさしさ」を実践していました。ただ相手に合わせるだけでなく、「もっとこうしよう!」と本音でぶつかり合う。それは一見、摩擦を生むように見えますが、相手を信頼し、共に良いものを作りたいという、柔軟さや芯の強さを兼ね備えた「しなやかな強さ」があったからこそできたことです。

岩村先生が本書で語る本当のやさしさとは、次の2つの強さです。

○自分を大切にできる強さ

自分の軸(価値観)がしっかりしているからこそ、他人の意見に流されず、相手を本当の意味で尊重できます。

○違っていてもあたり前と思える強さ

自分と違う考え方に会ったとき、拒絶するのではなく「なぜそう考えるのだろう」と想像力をはたらかせる。これこそが、多様性の時代に求められるやさしさの原点です。

体育会という大きな行事を終え、6月は、クラスの間関係が次のステップへ進む時期を迎えます。だからこそ、生徒の皆さんには「本当のやさしさって何だろう?」と、日々の生活の中でも立ち止まって考えてみてほしいのです。

学校生活のあらゆる場面で、このような考え方を実践し、「しなやかな強さ」に裏づけられた「本物のやさしさ」を備えた人間へと成長していってくれることを願っています。

【本校中庭の梅の実について】

本校の中庭には、大きな梅の木があります。すみれ学級の生徒たちは、この梅の実を用いて、収穫-加工-試食-販売という貴重な教育活動を行っています。そのため、毎年この時期になると、収穫できる日を楽しみにしていました。ところが、心ない手によってほとんどの梅の実が持ち去られてしまいました(5/18朝、発覚しました)。生徒たちの気持ちを思うと、本当に残念でなりません。警察に連絡しておりますが、今後は防犯対策を強化してまいります。地域の皆様におかれましても、子どもたちの学びの場をこれからも見守っていただきますよう、ご理解とご協力をお願い申し上げます。